

平坦地域における白ネギべと病の防除対策について

平坦地域では4月から5月にかけてべと病の感染拡大が見られています。また、収穫の遅れた抽台した白ネギでべと病が多発しており、地域でのべと病の菌密度の増加と秋季におけるべと病の発生が懸念されます。また、気象庁の予報では6月は降雨量が多いこと、昨年6月に一部圃場でべと病の発病株率が高かったこと等から、今後もべと病の発生に対し、注意が必要と思われます。

圃場内外でのべと病の発生状況や農薬の散布状況に応じて予防剤や治療剤を散布し、べと病が多発している抽台した白ネギは、速やかに圃場外で適切に処分してください。

1. べと病の発生状況

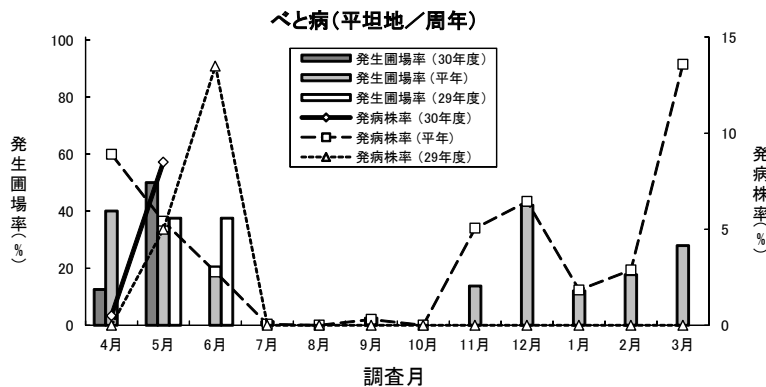


図1 べと病発生状況

2. 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が認められていない圃場でも感染の可能性があり、発生に好適な気象条件(平均気温13～20℃、降雨)が続くと急激にまん延するため適期に防除を行う。
- (2) 薬剤散布は曇雨天時を避け、薬剤が速やかに乾く晴天時に行う。
- (3) 薬剤が付着するよう必ず展着剤を使用し、株元にも十分付着するよう散布する。
- (4) 多湿条件や多肥、肥料不足は発生を助長するので排水対策を施すとともに、適正な肥培管理に努める。
- (5) べと病の多発した白ネギは感染源となるため、圃場外で適切に処分する。
- (6) 使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準(使用時期、使用回数等)を遵守する。中でも同一成分を含む薬剤を連用しないようローテーション散布を心掛ける。

(ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/oita>)

